

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 石橋 伸一

山名	赤坂山	山行名	教育部・花木観察登山
ルート	マキノスキー場・栗柄峠・赤坂山・明王ノ禿・黒河峠・林道入り口		
山行日	2015年5月9日(土)	天候	曇り
参加者	リーダー：石橋 伸一 サブリーダー：大林 京子 男性：、園上、山下、守口、梅澤 女性：徳田、上田(秀)、岡本、大林、江平、伊藤、倉光、五百田、永田、竹原(絹) 合計：16名		

ルート概略図	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
京田辺	集	7:30	明王ノ禿	着	13:25	
	発	8:05		発	13:30	
マキノ高原 駐車場	着	10:00	三国山分岐	着	14:05	
	発	10:15		発		
武奈ノ木平	着	11:20	黒河峠	着	15:05	
	発	11:30		発	15:20	
栗柄越(鉄 塔・昼食)	着	12:20	林道入り口 (バス乗車)	着	15:50	
	発	12:50		発	16:00	
赤坂山 (823.8)	着	13:05	京田辺	着	18:00	
	発	13:15		発	18:10	

山行報告

朝方は小雨がぱらつき天候が気になる。幸い渋滞なく予定どおりにマキノ高原着。天候は問題なさそう。まずは準備体操後、2班に分かれてスキー場の中の道を歩く。ゲレンデの奥の端が登山口。いきなり急登の階段が続く、かなりの坂を登り一息ついた所に武奈ノ木平の広場。

今回は教育部主催の花木観察登山と銘打って、この山に見られる花木約15種類を資料に印刷(カラー写真付)これらの花を見つけ確認して歩くことに・・・ところがここまで思っていたチゴユリやイカリソウ等がない。私としてはやや意気消沈して歩いていたらいきなりイワカガミやイカリソウ、シハイスミレ、チゴユリなどが姿を現す。ショウジョウバカマは花が終わっていた。やがて林の中の急斜面にイワカガミの大群落が次々と続く。さらにこの山特有のオオバキスミレ、そしてカタクリもまずは一安心、というところで栗柄峠近くの鉄塔の下で大展望をたのしみながらの昼食。北側目の前に赤坂山、南東部に金糞岳～伊吹山の連山、先週登った御池岳はかすんで見えず。昼食後、緩やかな尾根を登って赤坂山山頂へ。標高824mの大展望は360度遮るものはない。岩が削げ落ちた独特の地形は明王ノ禿、そこからブナの樹林帯へ緑の新緑が美しい。そして今度は場所を住み分けたようにイワウチワの群落、林の中にはオオカメノキとタムシバの白い花が目立つ。事情で6時までに京田辺に帰ることで三国山のピストンは止める。それでも黒河峠は3時を超える。ここからの林道歩きはダラダラと長い、入口までバスが迎えにきてくれるのがありがたい。4時ぎりぎりにバス乗車なんとか時間に間に合った。なお今回の花木観察登山、説明者が一人のため、前の方が後ろの方へ花の名前を伝えていく方法をとったが、前の班はまだしも後ろの班までは伝わりにくかったそうです。反省。

ヒヤリハット なし

仕事や地域のボランティア、家事都合、ズルなどで半年ほど山から遠ざかっていた。去年もほぼ同じくらい山を休んだ。今回、誘われたことと石橋 CL が新しい教育部セミナーに挑戦されたのでそのことに賛同の意を表明したくて参加した。実は4年間教育部担当であった。一番の悩みは参加者の確保。どんなにいい企画であろうとも参加者がいなければ無意味。16名の参加者を得たということはまずまずの結果ではなかったか？

1. 印象に残った花について

1) イワカガミとイワウチワについて

野坂岳で初めて見た。今回、群生地に恵まれ違いがはっきりした。赤坂山にはイワカガミ、三国山にはイワウチワの群生地があった。花も葉も違う。数個群れているのがイワカガミ、独立した花をつけるのがイワウチワ。ただ同じイワウメ科である。

2) エンレイソウ（延齢草）

白山でも見た。開花するまでに数年かかるとか。そのことがこの名前の由来とか。

3) イカリソウ

か弱いイメージの花である。ただ姿とは似合わない薬効があるとか？絶滅危惧種にならないといけないがと思う。

4) シハイスミレ（紫背堇）

名前のごとく葉の裏が紫とか。残念ながら今回は確認できなかった。

5) オオバキスミレ（大葉黄堇）

名前の通り、葉が大きく、黄色い堇である。群生する事なくしかし、所々でみかけた。

2. セミナーのスタイルについて

石橋 CL が先頭を歩き、花を発見。周りの生徒（1班）に説明。2班は1班から伝達してもらう約束であったがうまく伝わらなかった。伝達役をはっきりさせるか講師2人制をとるかしたほうがよかったのでは？大きな問題ではなかったが。

3. 花の写真の撮り方

いつものようにオートで撮った。がほとんどピンボケであった。正確にいうと花にピントがあっていなかった。視力に自信がないものにとって地面に咲く小さな山の花を撮るのは難しい。次回はマニュアルを試してみようと思っている。

4. 写真

左から全員集合写真とシハイスミレ。

